

いっしょに遊んじゃ  
 いけないの？

ささえあい基金助成団体を紹介



視覚障がいのある子とない子が  
 いっしょに読める絵本を提供



パルシステムグループの理念※実現のため  
 スタートしたパルシステム共済連の「ささえ  
 あい基金」。これはCO・OP共済《たすけあ  
 い》の掛金から生まれた剰余金を活用し、地  
 域の市民団体やNPO法人をサポートする  
 助成金制度です。今回は、視覚障がいがあ  
 る子どもへの支援を行っている団体をご紹  
 介。冒頭の子どもの素朴な疑問にどの  
 ように答えているのでしょうか？

※パルシステムグループの理念  
 ……「心豊かなくらしと共生の社会を創ります」

ユニバーサル  
 絵本ライブラリー  
 UniLeaf (ユニリーフ)

2008年7月設立。ユニバー  
 サルデザイン絵本の製作・普  
 及活動を通じ、視覚障がい  
 のある子・ない子の相互理解  
 の促進に寄与し、誰もが尊重  
 され共に生きていく社会の実  
 現に貢献することをミッション  
 として精力的に活動中。



代表 大下利栄子さん

だれでも楽しさを共有できる  
 ユニバーサル絵本



ユニバーサル絵本とは、点字  
 で本文が書かれた透明シー  
 トを絵本に挟み込んだ絵本  
 のこと。視覚障がいがある子  
 どもも、ない子どももひとつ  
 の本をいっしょに読め、楽し  
 みを共有できます。同じ時間  
 を過ごすことでお互いの理

解が促進され、どんな人でも「いっしょが当たり前」という共生の社会を身をもって感じられます。  
 「大人たちが視覚に障がいのある子どもに接する場合、安全を考慮して特別な扱いをしがち。子どもたちは本当はいっしょに遊びたいんです」(大下さん)

ユニバーサル絵本を全国の家庭や学校へ  
 無償で貸し出し※

大下さんは楽しさを共有するツールとして、ユニバーサル絵本に着目。一冊一冊解体しては透明シートに点字タイプライターで本文を打ち、元の絵本に挟んで再び製本。そんな手づくりのユニバーサル絵本は、いまや1,300冊にもなりました。  
 この本を全国の家庭や学校から希望を募って、無償で貸し出す取り組みをしているのがユニリーフ。本のセレクトはリクエストもありますが、ほとんどの場合、大下さんたちが選びます。「年齢だけでなく、点字がどれだけ読めるのか、学習の進み具合を考えて選びます。その子に合った本を読むことを大切にしています。ボリュームのある冒険物語も人気なんですよ」(大下さん)



※著作権の都合上、利用は視覚障がいのある方に限られます。

## 大人たちの経験や常識で 「できない」と決めつけないで

大下さんの次女<sup>あゆみ</sup>の歩さんは2歳で目の病気を患い、失明。大下さんはみんなの中で過ごさせたいという想いから、普通の小学校に通わせます。小学校も盲学校の先生をつけてくれるなど、体制を整えて迎えてくれました。それでも必ずしも“みんなといっしょ”にできたわけではありませんでした。

「印象的なできごとは3年生のとき。運動会で一輪車競争をやることになりましたが、担任の先生は娘が出るのをなかなか許してくれませんでした。先生の経験で無理、危険と判断したのでしょう。でもチャレンジしてみたくて、日没後の校庭で毎日ふたりで一輪車の練習をしました。結果、運動会では一等になりました」



失明した娘さんを育てた経験が活動の原動力



### 利用者のエピソード

貸し出した『ふたりはともだち』（アーノルド・ローベル作、文化出版局）を気に入った子のこと。友だちの家にこの本を持って遊びに行くと「私もその本持ってる!」って。いっしょに丸読み<sup>\*</sup>をして、とっても楽しい時間を過ごしたそうです。

<sup>\*</sup>丸読み ひとりが句点「。」まで読んだら、もうひとりに交代して読み進めること。

### ★ユニリーフを利用した人の声をご紹介します★

娘、本が好きになり、学校から借りてくるのも合わせ、月10冊以上の本を読んでいます!



月に一度、ボランティアのみなさんで発送します。

まいつきおくらしてください  
ほんがたのしみです。  
かがくなどのおもしろいほんをおまちしています。

<sup>\*</sup>点字で送られたお便りの原文のまま掲載。

## 楽しみを共有した経験が 共生の未来をつくる

「子どもたちは先入観がないから、自然に受け入れるんですね。歩ちゃんとはこうして遊ぼう、って自分たちで工夫して。輪の中に小さい子どもがいたら、その子に合わせて遊ぶでしょう。それと同じです。結局は慣れることなんです」

子どものころから障がいがある人といっしょの時間を過ごすことにより、いつしか“当たり前”になります。同じ本で楽しみを分かち合えるユニバーサル絵本は、その手段として大きな役割を果たしています。



## ユニリーフの新しい挑戦 建長寺“さわる”模型プロジェクト

ユニバーサル絵本の貸し出しを続けると同時に、ユニリーフでは新たな挑戦を始めました。それは観光地で、視覚障がいのある人となない人がいっしょに旅の思い出を分かちあえるプロジェクトです。歴史的建造物のブロンズ模型を作り、すぐそばに、だれでも触れるように設置。目で見ずとも、建物の形や精巧さを触って知ることができます。視覚に障がいがない人にとっても、様々な角度から建物を見て新しい発見があります。このプロジェクトに鎌倉五山のひとつ建長寺（神奈川県鎌倉市）が賛同し、仏殿の模型設置が決定しました。パルシステム共済連の「ささえあい基金」は、このプロジェクトに対して助成を行い、4月にお披露目となりました。

「へっこきあゆさがよめにきて」もう、  
いままでよんできたほんしじょう、  
いちばんおもしろい  
さいこうけっさくでしたあ!

ユニリーフのホームページより、下記お披露目式の動画も見られます。



素敵な絵本にサービスに本当に感謝しております。触って楽しめる見やすい工夫がありました。



誰でもさわれる  
ブロンズの模型



模型のそばには立て札。目に障害ある人となない人が体験を共有できる意義を伝えています。

模型は3Dプリンタや鋳造・切削技術を駆使し、1/50のサイズで作られています。

## 鎌倉建長寺“さわる”模型 お披露目式

4月21日（日）、大本山 建長寺にて“さわる”模型のお披露目式が行われ、パルシステム共済連「ささえあい基金」運営委員会も参加しました。このプロジェクトに賛同した約80名の前で除幕され、歩さんがファーストタッチ。その後、式の参加者・一般参拝客に公開となりました。式典のあとには、大下さんをはじめ、プロジェクトに携わった関係者のトークショーが行われました。模型設置までの道のりを振り返りつつ、その意義を改めて共有。ほかの観光地でも広がってほしいという思いが、建長寺の会場を包みました。



歩さんは、屋根の形や細かい細工を知り「とても美しい」と話されました。

## Information

～大人も子どもも、視覚障がいがある人も、ない人もみんな一緒に～

参加者  
募集

もっとうまい明日へ  
**超えタビ**

# “触感で遊ぶワークショップ” DE 共生社会を感じる旅

人は、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚の五感によってさまざまな情報を得て暮らしています。昨今、スマートフォンの普及とともに、五感のなかでも「視覚」に頼ることが多くなっています。今回、取材させていただいたユニリーフさんの協力の下、“手指で見る”「触覚」だけを使って遊ぶワークショップを開催することになりました。さわることで得られる発見をしてみませんか？



### プログラム(予定)

#### 01 さわる・つくる 02 さわる・あそぶ 03 よむ・さわる・きく

目を閉じて  
粘土で作ってみよう



触ってできるゲーム!?  
ほんとうに見ないでできるの??



ここでしか体験できない、  
日本で唯一の透明  
点字シート付絵本を読もう!!



### ワークショップ概要

9月14日(土) 13:30～15:30開催

#### 場所

カルチャースペース鎌倉 3階C1・C2会議室  
〒248-0006 神奈川県鎌倉市小町2-12-35 大路ビル

JR鎌倉駅 徒歩5分

できるだけ公共交通機関を利用してお越し下さい。

#### 参加費

無料(交通費は各自で負担ください)

### 応募方法

二次元コードから  
特設ページへ行き、  
必要事項を入力の上、  
応募して下さい。



応募  
期間

7月1日(月)～7月31日(水)

募集人数 最大10組

※申し込み多数の場合は抽選とさせていただきます。

お知り合いの方同士、おひとりでの参加も可能です。